

12月16日のウクライナ情報

安齋育郎

●ルハンスクの少年の夢(2022年12月13日)

前線近くに住む LNR の少年は、「普通に生活して、水と光があること」を夢見ている。インタビューの女性のヘルメットに「国際空手連盟極真会館」のステッカーがある。



国際空手連盟極真会館の声明文

声明文「ウクライナ侵攻について」

理事長 田畑 繁

大山倍達総裁は 1975 年の第 1 回世界大会において、極真理念を発表しました。

「極真カラテは人種、民族、国境を越え、政治、宗教、思想の垣根を撤廃し、世界人類の平和の実現を目指す。」

私たちは一人一人の命の尊さを知っています。武道は、人命を尊重し、敬意を表し、礼儀礼節を尽くします。両親に授けていただいたかけがえのない命ほど大切なものは、世の中にはありません。世界中どの国でも、両親の愛、家族の愛を一身に与えられて、人は育っていきます。人は元々、愛し合う力を持っています。人間は愛の結晶です。

しかし、戦争は命を殺す行為です。平和とは真反対の行為です。戦争の犠牲の上に成り立つ平和などありません。この、何物にも代えられない尊い命を戦争の犠牲にしてはなりません。

私たちは、これ以上、戦争による犠牲者が出ないこと、又、亡くなった全ての人に哀悼の誠を尽くします。

そして、極真会館は戦争に反対します。

※安齋注:特定の国名を出していないのは、世界への空手の普及を目指す理事長のお考えなんでしょう。

●冬のためのドイツのウクライナ支援(2022年12月14日)

ドイツのベアボック、今冬のウクライナ支援として 5000 万ユーロ(約 72 億円)の追加割り当てを発表。「プーチンは凍結戦術でウクライナ人を破滅させようとしているが、我々はそんなことはさせない」とパリで行われたウクライナ支援に関する会議で発言した。

投稿者コメント:ドイツ人の金が愚かな人間達によってブラックホールに吸い込まれる。



※安齋注:アンナレーナ・ベアボックは、ドイツの政治家で所属政党は同盟 90/緑の党。元同党共同党首。2021 年発足のシオルツ内閣で(ドイツでは女性初の)外務大臣を務める。ベアボックはドイツからアメリカの核兵器を引き揚げさせることを求めている

●EU のウクライナ支援は約13兆円(2022年12月14日)

ウルスラ・フォン・デア・ライエンは、2014 年以来、EU はウクライナに 900 億ユーロ(約 13 兆円)を資金提供してきたと述べた。2023 年の EU のキエフへの援助は 180 億ユーロ(約2億6千万円)にのぼる。



●FTX の新 CEO の証言(2022年12月14日)

FTX の新 CEO、ジョン・J・レイ三世(アメリカの弁護士、倒産処理の専門家)は、サム・バンクマン=フリードは、数十億ドルの会社の管理に、中小企業向け会計ソフトウェア「QuickBooks」を使っていたと語った。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1602861331308511234?t=LgM9FYT1LFrCLjyDgeMeXA&s=09>



※安齋注:現在破綻している FTX(暗号資産取引所)は、ウクライナへの寄付金をアメリカ民主党の候補者に洗浄し、中間選挙を不正に操作するために使用されたと言われています。倒産した FTX の創設者で元 CEO のサム・バンクマン=フリード氏はバハマで逮捕されたが、有罪判決を受けて最高刑が言い渡された場合、最高 115 年の禁固刑を言い渡される可能性があるという。

●ウクライナ占領地はロシア領「現実」受け入れよとロシア大統領府(2022年12月14日)

【AFP=時事】ロシア大統領府(クレムリン、Kremlin)のドミトリー・ペスコフ報道官は 13 日、ウクライナ侵攻で占領した地域を同国政府がロシア領と認めない限り、紛争解決に向けた進展はないとの見解を示した。

パスコフ氏は記者団に対し、「現実にはロシア連邦が新たな領土を獲得した」ということであり、その点に納得しない限り「いかなる進展もあり得ない」と述べた。

ロシア側はウクライナ南部のザポリージャ、ヘルソン両州、東部のドネツク、ルガンスク両州を完全に掌握していないにもかかわらず、併合したと主張している。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は 12 日、先進 7 개국首脳とのオンライン会合に参加。ロシアに対し、クリスマスに軍を撤退させ、「侵略」をやめる用意があることを示すよう求めた。だが、ロシア側は翌 13 日、これを拒否した。



●キエフ側で紛争に加わる米民間軍事会社「モーツァルト」が明かすウクライナ軍の内情、「兵の 7 割超が死傷」(Sputnik, 2022 年 12 月 9 日)

キエフ(キーウ)側を支援する米国の民間軍事会社「モーツァルト・グループ」の創業者、アンドリュー・ミルバーン氏(米海兵隊の元大佐)はウクライナ軍の損失は甚大で、兵士の 7 割以上が死傷したと発言した。米誌ニュースウィークの取材に応じた中で発言した。

「モーツァルト・グループ」のミルバーン氏はニュースウィークの取材に応じた中で、ウクライナ軍の被害について「彼らは非常に多くの損失を被っている、メディアでは 70%以上が死傷したと言われているが、誇張ではない」と発言した。

報道によると、ウクライナ軍は東部で甚大な被害を被っているという。ウクライナ軍は兵士不足に陥っており、しかるべき訓練を受けていない新兵が前線に派遣される状況にあるという。モーツァルト・グループが訓練を施す新兵の 80%は銃を一度も手にした経験がないとミルバーン氏は指摘している。また、モーツァルト・グループは資金不足により年明けにはウクライナでの活動が困難になるとの見通しを示した。支出の大半は破壊された輸送兵器の修理や交換にあてられているとのこと。

またモーツァルト・グループの傭兵はロシアの民間軍事会社ワグナー・グループの標的になっており、傭兵がチェックインするホテルにはミサイル攻撃が加えられるケースが相次いでいることから、特にドンバス地域では入居を断られている。



●自国を犠牲にしてまでウクライナを支援すべきでない＝仏政治家(Sputnik, 2022年12月14日)

フランスは自国の軍備が不足する中でウクライナに対して兵器供与を行っており、これは正気の沙汰ではない。フランスの保守政党「愛国者」のフロリアン・フィリップ党首が表明した。

フィリップ党首はツイッターへの投稿で、「軍備がほぼなくなったが、我々はゼレンスキーに兵器と弾薬を供与し続けている、この完全なる狂気の沙汰を止めるべきだ」と記した。

先に、現地メディア「オピニオン」には「フランス軍、軍備は完全に消えた」と題された記事が掲載された。この記事にはフランス国際研究所の報告書が掲載されていた。それによると、フランス軍がウクライナに然るべき兵器供与をできない理由は軍備不足によるという。研究によると、過去30年間で欧州の軍は軍備を最大限にまで削減してきたとのこと。また2007年から2017年にかけて軍備が削減された際、軍事予算は他の予算にあてがわれ、それ以降この予算が戻されることはなかったとのこと。

フランス軍は自走榴弾砲「カエサル」75両のうち、24両をウクライナに供与したほか、既に使用されていない旧式の自走榴弾砲、短距離地对空ミサイル「クロタル」、装甲輸送車両「バステイオン」、燃料、弾薬、医薬品、携帯食なども供与している。



●ウクライナ政府の制裁を受けたウクライナ出身のチェスグランドマスター、「この国にはもう関わりたくない」(Sputnik, 2022年12月14日)

史上最年少でチェスグランドマスターの称号を手にしたウクライナ出身のセルゲイ・カリヤキンさん(32)はスポーツニク通信の取材に応じた中で、ウクライナ政府による制裁を発動された現在の心境を明かした。

先にウクライナ最高会議はロシアのスポーツ選手に対する制裁を承認した。

この制裁にはウクライナ出身のチェスグランドマスター、カリヤキンさんも含まれる。カリヤキンさんはスポーツニク通信による取材の中で次のように発言した。

「指摘されたすべての制裁の中で私が該当するのはウクライナ・功労スポーツマスターの称号だけだ。この称号を失うのか、どうか、私は知らない。しかし、彼らはこの決定により私ではなく自らを恥じにさらしにしている。ウクライナについて言えば、これがまともな国だった頃はウクライナのために出場していた。そして大きな結果を残してきた。たくさんの競技で優勝してきた。従って私はこの国にメリットだけをもたらしてきた。今はもちろん、私とウクライナを結びつけるものは何もない。私は極力この国家から、市民ではなく、まさにこの国家から少しでも遠い所にいたい……この決定はウクライナで生じる全ての事態には関係ない。彼らからは良いニュースは何も期待できない。私に対し、刑事告

発しようとしていた。起こしたのかどうかは知らないが、正直言ってもう私は興味ない。したいことをすれば良い。私は自分の人生を生きるだけだ。幸いにして、私とウクライナを結びつけるものはもう何もない」

カリヤキンさんはウクライナ・シンフェロポリ出身のチェス・グランドマスター。早熟の天才と謳われ、歴史上最も若い12歳7カ月でグランドマスターとなった。



●ゼレンスキー大統領、復興に120億ユーロの拠出を国際社会に要請(2022年12月14日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はフランスで開催されているウクライナ支援の国際会議に参加する国々に対し、国内の施設復興に120億ユーロ(約1兆7000億円)の拠出を呼びかけた。

ゼレンスキー大統領によると、ウクライナでの戦闘行為は11の州におよび、復興が必要な施設は5万箇所を超えるという。

先にフランス外務省は、この国際会議で集まった支援額は10億ユーロに達したとしていた。一方、ゼレンスキー大統領はエネルギー分野で緊急に必要な支援額は、8億ユーロとしていた。



※安齋注:参考までに、日本経済研究センターが評価した福島原発事故の処理費用は、廃炉が40年で終わるとした場合(安齋は100年単位で考えていますが)、除染・補償・廃炉で35兆円~80兆円と見立てています。(2019年3月7日)

●「影響力が足りなかった」退任前にロシアとの対話を確立することができなかった＝メルケル前独首相(2022年11月25日)

ドイツのメルケル前首相は独誌シュピーゲルのインタビューで、退任間際に欧州連合(EU)レベルでロシアとの新たな形式による対話を成し遂げることができず、ウクライナを巡る状況の進展に影響を及ぼすことができなかつたという認識を示した。

メルケル氏によると、ウクライナでのロシアの特殊軍事作戦は予期せぬ出来事ではなかつたという。「『ミンスク合意』は損なわれた。2021年夏、バイデン大統領とプーチン大統領の会談後に私はエマニュエル・マクロン氏(仏大統領)と共に欧州理事会でプーチン氏との独立した欧州形式の議論を再び実施したかった。(しかし)反対する人がおり、私にはもうそれを推進する力はなかつた。誰もが『彼女(メルケル氏)は秋にいなくなる』ことを知っていたからだ」

メルケル氏は、もし再出馬を決めていたら引き続きロシアとの対話を目指していただろうと述べた。一方、メルケル氏は、ドイツ首相として最後のロシア訪問で、「権力政治」の文脈において自分の時代は終わったことを理解したという。

「外交政策に関しては、私たちがその解決に向けてたゆまず努力してきた問題において、私はわずかな進歩も成し遂げることができなかつた。そして、それはウクライナだけではない。沿ドニエストル共和国とモルドバ、グルジアとアブハジア、シリアとリビアもそうだ。新たなアプローチの時代が訪れた」メルケル氏は先に、ドイツ・ミュンヘンで開催された南ドイツ新聞(Süddeutsche Zeitung)の創刊77周年を記念する式典で、ロシアの参加によってのみ、欧州における恒久的な平和を達成できると表明した。



※安齋注:すでにお知らせしたように、このメルケルが12月7日付のドイツのジャーナル『ツァイト』に掲載されたインタビューの中で、「ミンスク合意はウクライナが防衛力を強化するための時間稼ぎだった」と発言したとなると、そりゃあプーチンもお怒りでしょうね。ミンスク合意がウクライナ東部での紛争を凍結しただけで、問題を解決しないことを「誰もが理解していた」、そして、「キエフに”かけがえのない時間”を与えた」と述べたということですが、要するにミンスク合意なるものは NATO がウクライナ軍に武器を持たせ訓練し強化するための時間稼ぎだったというから驚きますね。

これに対するプーチンの反応は、下の映像でどうぞ。これは重要な資料です。プーチンは、このメルケルの発言を聞いて、「特別軍事作戦の正しさを確信した」と述べています。

<https://twitter.com/i/status/1601480705338650625>



ちなみに、ドイツのメルケル首相が10日、ベルリンでの式典の最中、またまた体が震える症状に襲われました。フィンランドのリンネ首相を歓迎する式典で、並んで立ちながら国歌の演奏を聴いている間小刻みに震えていました。式典は屋外で行われ、気温は18度ほどでした。メルケル氏はこの後の会見で、「調子は良い。心配はいらない」と、健康への不安を否定しました。メルケル氏が公の場でこうした症状を見せるのはこの3週間で3回目、健康状態への懸念が強まっています。タンパク質から成る感染性因子(プリオン)の感染が原因と言われる「クールー病」と伝えられる。

<https://youtu.be/nusj9N88SZg>